

令和7年度教育活動等に対する幼稚園評価に関する資料

令和8年2月9日

学校法人 梅華学園 篠ヶ瀬幼稚園 園長 國分 幸
学校法人 梅華学園 篠ヶ瀬幼稚園 幼稚園関係者評価委員会
委員長 水野 美穂

1 幼稚園の教育目標

- ① <3歳児>親から離れ集団生活への安定を図り、園に親しむ。先生や友だちと喜んで遊ぶ。基本的な生活習慣の反復習得に努め、徐々に身につける
- ② <4歳児>日常の活動を広げ、グループの結びつきの芽を育てる。自分なりの興味や関心を高める。基本的な生活習慣を深化させ、集団生活の仕方を理解する
- ③ <5歳児>遊びや作業を粘り強く行い、自分の力で成し遂げた喜びを味わう。友だちと交流を深め、豊かな経験をする。年長児としての自覚を持ち、小学校への期待を持って活動する

2 本年度の重点目標

- ① 園生活の中で実体験の機会を多く持てるよう環境を整える
- ② 子ども達が人やものに関わる喜びを感じることができるよう心がける
- ③ 園での活動を通じて、家庭と園間の良い循環が育まれるよう努める
- ④ 保育者の資質向上を目指す（幼児教育の可視化・同僚性・自己研鑽・家庭との連携等）
- ⑤ 保護者や地域の子育て支援の充実、地域社会との交流を促進する

3 特徴的な取り組みまたは近年の新しい取り組み

- ① 年長組収穫体験等<玉ねぎ収穫 R7. 5. 8><じゃがいも収穫 R7. 6. 6><とうもろこし収穫 R7. 6. 27><パプリカ農園見学 R7. 7. 2>
<お茶摘み体験 R7. 11. 4><みかん狩り R7. 11. 21><人参収穫 R7. 12. 5>
- ② 年長組環境教室<焼き芋作り R7. 10. 31><はがき作り R7. 11. 6><エコバック作り R8. 2. 16>
- ③ 秋祭り (R7. 11. 1)
- ④ 保育者体験 (R7. 10. 27～29)
- ⑤ ちびっこ先生 (年長組園児が満3歳クラスに入る機会)
- ⑥ 他園との交流会 (R8. 3. 2 早出幼稚園年長児来園予定)
- ⑦ 英語教室 (火金) ピアノ教室 (木) 開設
- ⑧ 「幼稚園を支えてくださる皆様へ」

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
1、幼稚園の教育目標 ① ＜3歳児＞	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭から離れて安定した集団生活を送り、園に親んでいるか ・先生や友だちと喜んで遊んでいるか ・基本的な生活習慣の反復習得に努め、徐々に身につけているか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・半数の園児が満3歳児クラスに在籍していたこともあり、生活の流れや基本的な生活習慣への戸惑いは少ない様に感じる ・今年度は学年に正規教員3名パート教員2名の配置で、年少ならではのトラブルもあったものの、子ども達に寄り添った保育ができたと考える ＊子ども同士のトラブルも大切な経験であるという点を保護者の方と共通理解していきたい ＊自我が芽生えると同時に、他児にも関心が向く時期の発達過程を念頭におきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・段々と園に親しみを持ち、先生や友達と関わりながら楽しく通園しているように感じる ・基本的な生活習慣を少しずつ身につけ、家庭でも自主的に取り組む様子が見られる ・先生の目が行き届いていると感じる
1、幼稚園の教育目標 ② ＜4歳児＞	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の活動を広げ、グループの結びつきの芽が育っているか ・自分なりの興味や関心を高められているか ・基本的な生活習慣を深化させ、集団生活の仕方を理解できているか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、のびのびとした様子が見られる年中組。自己中心性から脱却し、周囲に感心や興味湧いてくる、また出来ることも増えてくる時期であることを理解した上での支援を心掛けた ・お遊戯会では2クラスとも子ども達と創作劇に取組み、内面の意欲や創造性に繋がったように感じる ＊子ども達同士の問題に保育者が入り込みすぎず、子ども自身が様々な体験、経験ができるよう配慮が必要である 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活を通して友達との関わりが深くなり、活動にも積極的に取り組みながら、のびのび過ごしていると感じる ・協力しながら楽しく意欲的に活動に参加し、自分のできることを増やしているように感じる
1、幼稚園の教育目標 ③ ＜5歳児＞	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや作業を粘り強く行い、自分の力で成し遂げた喜びを味わえているか ・友だちと交流を深め、豊かな経験ができているか ・年長児としての自覚を持ち、小学校への期待を持って活動できているか 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども会議」と称してクラス内で子どもたち同士の話し合いの機会を多く持つように配慮した ・お節・しめ縄飾り等の製作を通じて季節や日本文化に興味を持つ様子が心掛けた ＊「こども会議」の内容を家庭にお知らせする必要性も感じている ＊子ども一人一人の認知・理解・行動に対する把握をするために、教員の資質向上に取り組むことが最善な改善策だと考えるため、具体的な取組を検討していきたい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・制作や活動を通して日本文化や季節の習わしに興味を持つことができたと感じる ・友達との交流を深めながら協力し合い意欲的に行動できている ・「こども会議」はどんな話し合いをしているのか知りたい

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
<p>2、本年度の重点目標</p> <p>①</p> <p>「園生活の中で実体験の機会を多く持てるよう環境を整える」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外で豊かな経験、体験ができるよう環境を整備できたか ・経験や体験から気付きや挑戦を促すことができたか ・同じ体験を友だちや保育者と共有することで、共感性を高められることができたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭内の植物栽培、芝生の整備等を通じて園児達の健やかな成長に寄与できた ・園児達の豊かな経験や体験の場となるような保育を心掛けた ・年中組は12月のお遊戯会の際にクラス全員での創作劇に取り組んだ。友だちや保育者と共同での体験は共感性を育むことができた機会であった ＊経験、体験の機会は多く持つことができたと考え、そこから「共感性」「気付き」「挑戦」へと発展させるには更に工夫が必要で、教員の高い資質が必要である ＊各家庭の体験格差が話題となっている昨今、園では平等に体験や経験を提供しつつ子どもの内面ではそれぞれの子どもにあった働きかけや援助があり、その見極めが大切だと考える 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活を通して園児たちの自然に触れる経験や体験の場を与えてもらい、生き物や植物などへの興味や関心が高まった ・友達や先生と協力し一つのものをつくりあげる経験はとても貴重でそこからさまざまな気づきや、共感性が持て、達成感もあるのではと感じた
<p>2、本年度の重点目標</p> <p>②</p> <p>「子ども達が人やものに関わる喜びを感じることができるよう心がける」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力、協同するために各年齢に沿った援助、保育ができていますか ・友だちと協力、協同する力が育まれているか 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児、年少、年中組では協力する前段階として他人への関心や思いやりを、年長組では他児と協力することによる協調性や達成感を育めるよう配慮している ・預かり保育や「ちびっこ先生」を通じて異年齢で関わる機会や環境作りをしている ＊園内で行っている公開保育では、この目標に沿って保育を行っている保育者が多いため関心は高いと感じる。今後、目標に向けた具体的な取組みを明確にしていきたい 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流の機会が増えるとよい ・園庭などでも上級生が自分たちよりも小さい子に興味を持ち優しく声掛けしている様子がみられた ・「ちびっこ先生」でいろいろな学年と関わると良いと思う

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
2、本年度の 重点目標 ③ 「園での保育を通じて、家庭と園間の良い循環が育まれるよう努める」	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活から受けた刺激等を家庭に持ち帰り、家庭での豊かな会話のきっかけや家庭内で挑戦するきっかけとなったか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園児が園内で見聞きしたことや体験したことを家庭に持ち帰り、家庭内で更に豊かな経験となるよう配慮した。例としては農作物の収穫体験後に家庭で調理していただいたり食べたり、ということを通じて家庭内の豊かな会話に繋がる事を期待している。また、園としての望みは、大変だけれど手間をかけることが大切！という考えも伝わってくれたら、と願っている ＊家庭に帰って、園での活動の話をしたくなるような内容の充実を引き続き計画していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活での経験や体験を積極的に話す子もいれば話さない子もいるので、言動だけでなく、行動や様子からもいろいろな感じ取っていききたい ・体験や経験が子供たちの自信につながっていると感じる
2、本年度の 重点目標 ④ 「保育者の資質向上を目指す（幼児教育の可視化・同僚性・自己研鑽・家庭との連携等）」	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の発達段階を捉えているか ・一人一人のより良い発達の手立てを考えているか ・一人一人の成長を言語化できているか 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任を中心に公開保育を行い、他者の視点や価値観を取り入れて自身の保育を見つめ直す機会を持った ・乳幼児施設を取り巻く現状や本園の状況、また本園の目指すべき方向性を教職員と共有する機会を持った ＊教員の指導は簡単に行動や思考の変容には結びつかないことも多い中、管理者・責任者として、どのようにあるべきか何ができるかを考え実践していく 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生を中心に職員全員で園児へ関わってくださっている
2、本年度の 重点目標 ⑤ 「保護者や地域の子育て支援の充実、地域社会との交流を促進する」	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の子育てを支援できたか ・地域の資源を活用することができたか ・地域社会との交流を促進できたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年4月より子育て支援ひろばを開設し、子育て家庭を支援できた実感がある ・ひろばの事業として「地域支援事業」も担っており、民生委員、児童委員など地域の方との交流が促進された ＊地域社会との交流は促進されている実感があるものの、交流から先の視点を持ち具体的に地域での子育て支援に貢献できる活動を模索していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ささっこ広場」や「なかよし広場」を通して未就園の子育て世帯でも安心して気軽に通え、同世代の子を育てる親同士の憩いの場にもなっていると感じる

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p style="text-align: center;">①</p> <p>「年長組収穫体験等7回」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で楽しい体験となったか ・作物や植物に関心を持つ機会となったか ・幼稚園教育要領「環境」内容「(4) 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」を意識して指導できたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・天候や栽培環境に左右され、日程変更、作物の出来等に影響があったが、そうした想定外のことも受け入れる柔軟性を身につけるきっかけとなった ・11月のみかん狩り予定地は滝沢町だったが数日前に近隣で熊が出没したとの情報があり、急遽行先や内容を変更した。しかし、新たな地域資源の活用にも繋がり良い結果に結びついた ＊人間の力では及ばない点が多い自然から、非認知能力の中でも特に重要だとされている「レジリエンス（適応力・回復力）」を育むきっかけとしていきたい ＊今後も天候や災害、野生動物の状況によって行事の変更が余儀なくされることが予想される。教職員自身も非認知能力を育み発揮していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動に取り組む園児が多かった ・自然や作物に触れる機会が多くあり、自分が収穫したものを嬉しそうに持ち帰る姿がみられた、食育にも大切なことだと感じる、これからも続けてほしい ・予定変更されたみかん狩りで「崖のような危険で不安な場所があった」との意見もあった
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p style="text-align: center;">②</p> <p>「年長組環境教室3回」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児達にとってリサイクルや物を大切にする意識が高まる機会となったか ・リサイクル教室を通じて環境問題やリサイクルの必要性を知る機会となったか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の講師を招聘し、エコバック作り・ハガキ作り・焼き芋作りを行った。製作の際には、なぜこうした講座が大切なのかの講話も頂き、子ども達は真剣に話を聞いている様子が見られた ・SDGsが話題になっている昨今、物に対して愛着を持ち大切にすることを育める機会となった様子であった ＊現在、園では外部講師を招いての教室を開催することによって園児の意識向上を目指しているが、日々の保育の中でも出来ることを模索していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・制作等の楽しさを通して物の大切さや、リサイクル・環境についても学べている

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p style="text-align: center;">③</p> <p>「秋まつり (R7. 11. 1)」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しい時間を過ごすことができたか ・秋という季節を感じる時間や内容となったか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も「イモほれほ一れ」を踊る様子を保護者の方にも見て頂けた。また園内の親子での活動は、季節の自然物を使用したり普段の保育からの繋がりを大切にしたりした ・役員さんたちのご協力の元、賑やかな中で親子そろって楽しい時間が過ごせたことと思う ＊より地域の方に開放していく方法を模索していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児の楽器演奏がとてもよかった ・保護者もPTA役員も時間に余裕をもって過ごせた ・先生側の出し物の制作が楽しかった ・PTAの準備では制作物は1種類とし、他の物品販売は予算を考慮しながら仕入れるなど、役員の負担が増えないように配慮をして行った、制作物についても場所の確保が難しかったため役員全員の協力もあって1日で完了させることが出来た
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p style="text-align: center;">④</p> <p>「保育者体験 R7. 10/27～29」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児達の普段の様子を見て頂く機会となったか ・園と家庭との前向きな相互理解の材料となったか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観ではなく保育者体験というスタイルにすることでより多くの子ども達と直接交流して頂くことによる発見や気づきを期待した ＊今後も秋祭り前の週に保育者体験を予定。秋祭りに向けた制作や取組みを見て頂くことで、親子で秋まつりを楽しみにできるように配慮していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回だけでなく、1学期に1回、3学期に1回など保育者体験できる機会が増えると良い ・「保育者の立場でお手伝いをさせていただく」ことが我が子以外の子供たちとも交流できるいい機会となっている

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p>⑤</p> <p>「ちびっこ先生（年長組園児が満3歳クラスに入る機会）」</p>	<p>・異年齢の交流が年齢の異なる子ども達それぞれにとって良い経験となったか</p>	A	<p>・12月より年長組4名程度の園児が昼食をはさんで1時間ほど満3歳児クラスに入り「ちびっこ先生」として異年齢交流をしている</p> <p>・幼い子は年長児に憧れを持ち、年長児は食事の補助や遊び相手となることで自信に繋がったり自身の成長を感じたりと良い経験の機会となっている</p> <p>＊年長児の中でも幼い子への接し方が分からず戸惑う子、満3歳児クラスへ行きたがらない子もあり、そうした子ども達の気持ちに寄り添いつつ可能性を伸ばすような援助をしていきたい</p> <p>＊昨年度の評価委員会で異年齢交流の機会創出の意見があり、そのことも参考にして今年度は取り組みを行った。今後も機会や内容を充実させていきたい</p>	A	<p>・満3歳児クラスだけでなく、他の学年のクラスへ行くのもいいのではないかと</p> <p>・行きたがらない子の気持ちも傾聴してほしい</p>
<p>3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み</p> <p>⑥</p> <p>「他園との交流会（R8.3.2早出幼稚園年長児来園予定）」</p>	<p>・交流の機会を通じて子ども達の成長に繋がっているか</p>	A	<p>・秋頃からドッジボールに取り組んでいる年長組園児。「せっかくなら他の幼稚園と対戦してみる？」という問いかけに大喜びしていたので、兵藤先生を介して交流会の機会を持つこととなった</p> <p>・子ども達にとって初めての経験や出会いとなるが、子どもたちなりに考えてメッセージカードを作成するなどして楽しみにしている</p> <p>＊単年の活動とならず、継続して交流を続けていけるように取り組んでいきたい</p>	A	<p>・初めての試みでいい刺激となりそう</p> <p>・交流してみたの園児たちの様子がどうであったか園児の感想も聞いてみたい</p> <p>・手紙を書いたのも、その過程で「顔も知らないお友達」を考え、思いやるいい機会となったと思う</p>

評価対象	評価項目	自己評価		園関係者評価委員の意見	
		評価点	園としての取り組み（・）と改善策（＊）	評価点	意見
3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み ⑦ 「英語教室（火金）ピアノ教室（木）開設」	・子ども達にとって新しい学びとの出会いの機会となっているか	A	・教育時間後の課外授業に対する要望が増えているため、新たに英語教室・ピアノ教室を開設 ・教室での学びを通じて、子どもの興味の幅が広がったと保護者の方から報告を受けている ＊子ども達の充実した課外活動を支援すると共に施設の有効活用の視点も大切にしていきたい	A	・「体操を始めてからできる事が増えた、もっと早く良さを知っていたかった！」との声もあった、保護者間でも情報共有をしていきたい ・保護者の負担も軽減しながら園児の興味のある分野を広げることができる ・他にも教室が増えると良い
3、特徴的な取り組み、または近年の新しい取り組み ⑧ 「幼稚園を支えてくださる皆様へ」	・家庭と園との相互理解の上で、円滑な園運営に結びついているか	B	・世間一般的に言われているカスタマーハラスメントのような対応に苦慮することもあり3学期が始まる前日に「幼稚園を支えてくださる皆様へ」の内容をご家庭へ周知するに至った ＊園や保育者にとっては無理な対応、子どものためになっていないのではないかと思われる対応を望まれるケースもあり、それらへの最適解を模索することの重要性を感じている	A	・昨今様々な場所で問題視されており、園や園児にとって、安心・安全に園生活が送れるために家庭に周知してもらうことは必要と感じる、知ること意識もかわると思う ・保護者側も行動を起こす前に「子供にとっての正解かどうか」を冷静に見極めたい

- 令和8年度は・子育て支援ひろばプロポーサル
- ・小グループに分かれた丁寧な関り
 - ・創立50周年